

正 誤 表

「鉄と鋼」63 (1977) 9, pp. 1564~1571

「鉄, コバルトおよびニッケルの固/液界面自由エネルギーの理論計算」

拜田 治・江見 俊彦

頁	行	目	誤	正
1564	Synopsis 上から	1行目	, σ_{sl} in iron group	, σ_{sl} 's, in iron group
〃	〃	2行目	Methods of experimental determination of σ_{sl}	Methods to experimentally determine σ_{sl}
〃	〃	3~4行目	, the method by measuring the critical supercooling	, the method to utilize experimentally determined critical supercooling
〃	〃	4行目	the most comprehensive,	most comprehensive,
〃	〃	5行目	reliable data, $\sigma_{sl}^{M.S.}$,	reliable data, $\sigma_{sl}^{M.S.}$'s,
〃	〃	5行目	The values of	The values of
〃	〃	6~7行目	the interface intersection method.	interface intersection methods.
〃	〃	7行目	correction for at melting point	correction for $\sigma_{sl}^{M.S.}$ at melting point
〃	〃	9行目	than those after	than that after
〃	〃	9行目	values, $\sigma_{sl}^{M.S.}(T_m)$,	values, $\sigma_{sl}^{M.S.}(T_m)$'s,
1566	右下から	20行目	TRIREDI	TRIVEDI

「鉄と鋼」63 (1977) 12, pp. 1838~1847

「ロール表面に溝をつけて圧延することによる3%珪素鋼板の加工度分布の変化について」

熊沢 増治・岩山 健三・菅 洋三

頁	行	目	誤	正
1838	題	目	Effect of Cold Silicon~	Effect of Cold Rolling

書 評

Werkstoffkunde der gerbräuchlichen Stähle Teil 1

実用鋼の材料工学 第1部

本書はドイツ鉄鋼協会とエッセン技術の家の共催で行なわれた講演シリーズに基づくものである。序言で述べられた所によると、この講演会の目的は、各種の実用鋼がこれ以上飛躍的発展が望めないほどの開発段階に達したという認識に立つて、それゆえにこそ現状の到達点を把握し、これからの発展をさらに可能にするのに必要な基盤としようとするところにある。

本書第1部ではこの目的にそつて次の鋼種について、その製法、特性、ドイツおよびヨーロッパ規格、および用途と共に、それぞれの発展の経緯、現状の問題点が解説されている。すなわち、§一般構造用鋼、船舶用、鉄筋コンクリート用構造用鋼では、非合金構造用鋼一般が扱われ、§降伏点 550 N/mm² 以下の焼ならし細粒構造用鋼では、焼ならし状態で使用される低合金高張力鋼について、§可溶接調質構造用鋼では、焼入れ焼戻し状態で使用さ

れる、より高強度の可溶接の低合金高張力鋼について、述べられている。§冷間加工用薄板 では、張出し性、深絞り性などの要求される冷間加工用薄板が、§自動切削用鋼 では、いわゆる快削鋼が扱われている。§低パーライトおよび無パーライト構造用鋼 では、制御圧延が適用される高張力強靱鋼について述べられている。

この他の鋼種については第2部で扱われるものと思われるが、第1部には上述の各論の他に次の8節が導入部におかれている。すなわち、§状態図および変態挙動 と §熱処理の基礎 では、鋼の金属組織学について、§力学的挙動では、破壊を含む材料強度学について、§化学的挙動 では、各種雰囲気での腐食、破壊について、その理解の現状が述べられている。§静的機械試験 および §動的機械試験 では、破壊靱性の試験法など、各種の材料試験法の現状と問題点がまとめられている。§金属組織観察法の発展の現状と将来 および §反射型、透過型電子顕微鏡では、組織観察法について同様に述べられている。

本書はいわば鉄鋼材料便覧の性格も有しているわけであるが、便覧としては内容が簡単過ぎるといえる。しかし各節が簡潔に記述されているということは、実用鋼全般にわたって本書の意図である発展の現段階と将来の方向の概念的把握を行なうにはきわめて適切である。この点から、本書はこれから鉄鋼材料の製造、開発にたずさわろうとする若い技術者のための鉄鋼の材料工学一般に対する入門・教養の書として一読の価値ある書といえる。

発行所 Verein Deutscher Eisenhüttenleute

(伊藤 邦夫)

「ESR 鋼塊、鋼材の欠陥事例集」刊行のお知らせ

本欠陥事例集は鉄鋼基礎共同研究会、特殊精錬部会、第2分科会の研究活動の成果として刊行するものであります。

第2分科会はESR実操業の問題点を整理、明確化し同部会の他分科会の基礎研究活動の参考に資する目的で昭和49年6月以降活動を続けています。この目的に沿って、これまで分科会構成各社で経験したESR鋼塊、鋼材の欠陥事例について、その原因および防止策を、ESR操業条件との関連で検討してきました。本欠陥事例集は、その検討結果を取りまとめたものであります。欠陥事例36件を鋼塊表面欠陥、鋼塊内部欠陥および鋼材内部欠陥に大別し写真で明示しました。ESR鋼塊、鋼材の欠陥事例集は公の刊行物としては、世界にも例がなく、現在ESR実操業にたずさわっている人にも、これからESRを勉強しようという立場の人にも、役に立つ貴重な資料と存じますので下記要領で頒布することになりました。ここに会員の皆様にお知らせ致します。

記

1. 価 格 800 円
2. 申込要領 書名、部数、送付先を明記のうえ代金を添えて現金書留にてお申込み下さい。
3. 申 込 先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
日本鉄鋼協会技術部 山本 (03) 279-6021

特殊精錬法文献集の有償頒布について

鉄鋼基礎共同研究会、特殊精錬部会の一つである第6分科会ではESRにとどまらず、ひろく特殊精錬すなわち取鍋精錬や特殊溶解に関する情報の収集を担当しております。このような情報活動の成果をひろく関係者の参考にしていただくため、ESR法に関しては、すでにESR文献集第1集、第2集としてその成果を刊行して参りましたが、特殊精錬法に関してもESRの場合に準じて調査をおこない、その成果をここに特殊精錬法文献集第1集として刊行することにいたしました。

対象とした特殊精錬法は、たんなる脱ガス法、スラグ処理法などを除いた溶鋼の取鍋精錬法(VOD, AOD, ASEA-SKF法など)および特殊溶解法(VIM, VAR, EBM, EBR, PAM, PAR法など)であり、各プロセスの設備、操業技術、応用技術ならびに基礎研究結果などを網羅しております。本文献集第1集は主として1960年以降の国際会議、シンポジウム、学協会誌および専門誌に発表された論文ならびに資料について、図、表、写真などにより内容を分類し、雑誌別、プロセス別に整理編集してあります。なお本文献集に集録しました件数は欧文579件、和文195件の合計774件であります。本文献集を広く皆様方に御利用いただくため下記要領で頒布することになりましたので、ここに会員の皆様にお知らせ致します。

記

1. 頒布価格 2,000 円
2. 申込方法 書名、部数、送付先を明記のうえ代金を添えて現金書留にてお申込み下さい。
3. 申 込 先 〒100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
日本鉄鋼協会技術部 山本由己 Tel. 03-279-6021